長野県黒姫 出張報告要旨

1. 訪問目的

黒姫にあるアフアの森では、アフアの森財団の理事長 C.W. ニコル氏の理念の下、放置された里山にある森林を再生・保全するとともに、そこにある資源を活用し、地域を活性化するプランを実施しようとしている。また、アフアの森のある信濃町も C.W. ニコル氏の「森林資源を健康・教育に活用した癒しのまち」として観光の側面からまちの活性化を図っている。国家戦略の大きな柱として地域活性化政策、観光政策と環境政策を検討するに当たり、そのいずれも満たすことのできる取組みにつき情報収集し、現場の意見、アイデア、課題などを収集する。

2. 現地で得られた意見・アイデア

(1) 里山資源を利用した地域再生プラン

<里山の再生>

- アフアの森を始めて 20 年ほどたった。荒廃森林も適切に手を入れることによって立派な森へと変えていくことができる。現在では、家具に使えるような木も取れるようになり、資源的価値も上昇している。
- 放置された里山も手を入れることにより蘇ることがわかった。ただし、広葉樹は樹種が多く、どの木を残して、どの木を間引くかの判断には、相応の訓練が必要で、そのための人材育成が不可欠。
- また、残した木が家具などに使えるようになるには時間がかかるため、当面は薪などのバイオマス利用を促進することが必要。そのためには、欧州で使われているようなトラクタをベースにした汎用性の高い機械があると便利。

<ホースロギング>

- 馬を伐採した木材の運搬に利用することで山を傷めることなく作業ができる。馬での運搬は日本の国土を考慮した小規模林業に適している。馬と人間と一緒に働いている姿は絵になるので、観光スポットにもなる。
- アフアの森に隣接した国有林が人工林であり、地形的にも適しているため、そこでまず始めたい。国有林に話をしたところ、理解を得られたため、具体化する見込み。

<木を原料にしたアロマオイル>

- アロマオイルは、健康志向の若い女性中心にニーズがある。現在、アロマオ

イルの95%は輸入品であり、そのほとんどが原料は生花である。生花に比べ、木を原料にしたアロマは低コストでかつ、成分は非常に体に良いものであり、需要は十分見込める。海外展開も狙えるのではないか。

<森のハチミツ>

- 日本ミツバチのハチミツは非常に味が良く、かつ高く売れる。天敵の熊の被害を避ける方法も考えついているので、ビジネスとしてやっていける。

<日本版イベリコ豚>

- 豚を里山に入れ、ドングリを食べさせ、日本版イベリコ豚を飼育することは可能。海外から高い値で輸入することはない。逆に輸出することもできるのではないか。

(2) 観光

<環境教育>

- 子ども達へ森の中で通常の授業を行う環境教育を提供する。英国では、一週間の野外教育が義務化されている。環境以外の一般教科も野外で授業を行う。自然の中で授業を行うことは子どもの記憶率の向上など一定の学習効果の向上も結果として見られる。

<エコツーリズム・森林療法>

- 企業に森林療法を勧め、社員研修や福利厚生宿泊施設としての利用を促しているとともに企業のCSR活動と連携した森林保全の取り組みも行っている。
- 森の心身への効果は医学的にも証明済み。英国やドイツといったヨーロッパの国では森を歩くことへの保険適用がされており、医者が処方箋を出して、森を散歩させている。

3. 今後の検討事項

- 人口1万人規模の町で、森林資源が豊富、風光明媚で、地域資源を活かすアイデアも豊富。これをどう統合して、町のイメージとしていくか、また、その推進役・担い手をどうするか。
- 森で働く人材の育成及び確保。
- 特に広葉樹林については、当面は薪利用が主体となるものと思われるが、その普及・促進の方策。
- 薪ストーブ・ボイラー、チップボイラー、およびトラクタをベースにした多機能機械の導入。

以 上